

## 週間火山概況 (平成 21 年 1 月 16 日 ~ 平成 21 年 1 月 22 日)

### 【火山現象に関する警報及び予報の発表状況】

いずれの火山についても、噴火に関する予報警報事項に変更はない。

表 1 火山現象に関する警報及び予報の発表履歴 (1 月 16 日 ~ 1 月 22 日)

発表日時	火山名	警報・予報	概要
毎日 07 時、17 時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布予想

表 2 1 月 22 日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3 (入山規制)	口永良部島
	レベル 2 (火口周辺規制)	雌阿寒岳、浅間山、三宅島、桜島、 薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報及び火山現象 に関する海上警報	周辺海域警戒	福徳岡ノ場
噴火予報	レベル 1 (平常)	十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、岩 手山、吾妻山、草津白根山、御嶽山、富士山、 伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山 (新燃岳)、霧島山(御鉢)
	平常	上記以外の活火山



図 1 噴火警報発表中の火山 (1 月 22 日現在)

## 【噴火警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

### 雌阿寒岳 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

ポンマチネシリ火口の噴煙はやや多い状態が続き、火口縁上200～300mで推移した。

22日に第一管区海上保安本部の協力により実施した上空からの観測によると、ポンマチネシリ96-1火口の噴煙活動はやや活発な状況が継続していたが、火口周辺に新たな火山灰等の噴出物は認められなかった（図2）。その他の火口（赤沼火口、北西斜面06噴気孔列、中マチネシリ火口等）の状況には、特段の変化はなかった。

振幅の小さな火山性微動が時々発生し、火山性地震は消長を繰り返しながらやや多い状態で推移した。GPSによる地殻変動観測では特段の変化はなかった。

雌阿寒岳では今後もごく小さな噴火が発生する可能性があり、ポンマチネシリ火口から500m程度の範囲では大きな噴石<sup>1)</sup>に警戒が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石<sup>1)</sup>に注意が必要である。



図2 雌阿寒岳 ポンマチネシリ火口の噴煙活動等の状況

（左）2009年1月22日の状況（第一管区海上保安本部の協力により、東側上空から撮影）。ポンマチネシリ96-1火口では、引き続きやや活発な噴煙活動がみられた。火口周辺に新たな火山灰等の噴出は認められなかった。ポンマチネシリ第4火口の噴煙は非常に弱い状況であった。

（右）参考：2008年11月28日のごく小さな噴火時の状況（北海道の協力により、南東側上空から撮影）。ポンマチネシリ96-1火口及び同第4火口から、火山灰を含む灰色の噴煙が勢いよく噴出している。

1) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風の影響を受ける小さな噴石」のことである。

### 浅間山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

16日に長野県警察航空隊の協力により行った上空からの観測では、山頂火口内は白色噴煙が充満し、火口底の様子は観測できなかったが、火口の内壁及び火口縁の外側の南側から南西側に淡い黄色の昇華物が付着していた。また、火口やその周辺には噴出物はみられなかった。

21日午前に行った山麓からの遠望観測で、山頂火口縁の北西側にごく少量の火山灰と思われる付着物を確認した。山頂火口内から火山灰を含むごく小さな噴出が発生したと考えられる。山頂火口からの噴煙量はやや多い状態が続き、噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移した。また、夜間には、高感度カメラ<sup>2)</sup>で確認できる程度の微弱な火映が時々観測されている。

火山性地震及び火山性微動はやや多い状態が続いている。

GPSによる地殻変動観測では、2008年7月初め頃から深部へのマグマ貫入を示すわずかな伸びの傾向がみられている。また、光波測距観測では、2008年9月頃から山頂と軽井沢測候所の間が縮む変化が観測されており、山頂部のごく浅いところの膨張によるものと推定される。

浅間山では、今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、山頂火口から概ね2kmの範囲では大きな噴石<sup>1)</sup>に警戒が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石<sup>1)</sup>にも注

意が必要である。なお、火山ガス放出量の多い状態が続いているので、風下側にあたる登山道等では火山ガスにも注意が必要である。

2) 長野県建設部佐久建設事務所の黒斑山設置カメラ、国土交通省利根川水系砂防事務所の山麓設置カメラ及び気象庁の追分カメラによる。



図3 浅間山 (左) 山頂火口と周辺の状況 (1月16日、浅間山南西側の上空から撮影) 赤色円の範囲で淡い黄色の昇華物が確認される。  
(右) 火山灰の付着の状況 (1月21日、浅間山北側の山麓から撮影) 青色円の範囲で火山灰と思われる付着物が確認される。

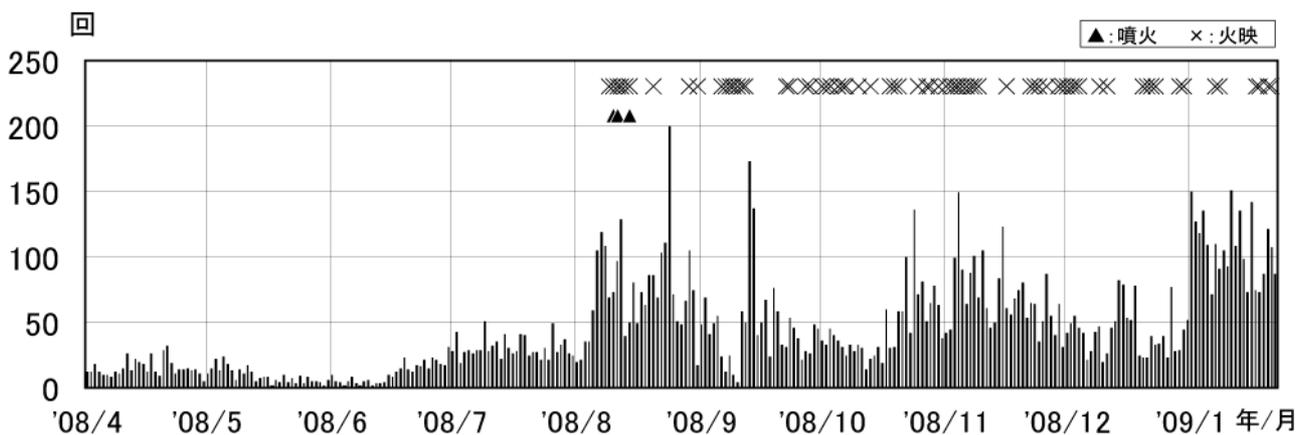


図4 浅間山 火山性地震の日別回数 (2008年4月1日~2009年1月22日)

### 三宅島 みやけじま 【火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、火口周辺規制)】

噴煙高度は火口縁上概ね100mで推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

今期間、現地調査を行っていないが、三宅村によると山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

三宅島では、今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺 (雄山環状線内側) では噴火に対する警戒が必要である。また、火山ガス予報で予想される地域では火山ガスに対する警戒が必要である。降雨時には泥流にも注意が必要である。

### 硫黄島 いあうとう 【火口周辺警報 (火口周辺危険)】

海上自衛隊の協力を得て行った21日の上空からの観測及び20日から22日にかけての現地調査では、前回の観測 (2008年7月29~30日) と比べて、島内の噴気、地熱等の状況に大きな変化は認められなかったが、島西部の阿蘇台陥没孔 あそだいかんぼつこう では、熱水の水位が低下し、孔の中ではごく小規模な泥混じりの熱湯の噴出が時々みられた。阿蘇台陥没孔では、これまでも季節的な水位の変化が確認されている。

独立行政法人防災科学技術研究所及び国土地理院の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過しているが、2006年8月以降みられている島全体の隆起を示す地殻変動は、2008年11月末頃からこの傾

向は鈍化している。

硫黄島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火が発生した領域では噴火に対する警戒が必要である。

### **福徳岡ノ場** [噴火警報(周辺海域警戒)及び火山現象に関する海上警報]

20日に海上自衛隊の協力を得て行った上空からの観測では、福徳岡ノ場付近の海面に火山活動に伴うものとみられる変色水が確認された。なお、これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測で、福徳岡ノ場付近の海面には、長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

福徳岡ノ場では引き続き小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

### **桜島** [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

昭和火口では時々ごく小規模な噴火が発生し、夜間には、高感度カメラ<sup>3)</sup>で確認できる程度の微弱な火映が時々観測された。南岳山頂火口では噴火は発生しなかった。

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いている。

国土地理院のGPS観測によると、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な膨張が続いている。また、桜島直下にマグマが新たに移動したことを示す地殻変動は観測されていない。

桜島では、引き続き南岳山頂火口及び昭和火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石に警戒が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石<sup>1)</sup>(火山れき<sup>4)</sup>)にも注意が必要である。降雨時には泥流や土石流に注意が必要である。

3)九州地方整備局大隅河川国道事務所の黒神河原上流設置カメラ等による。

4)桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

### **薩摩硫黄島** [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上100~300mで推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

薩摩硫黄島では、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では噴火に対する警戒が必要である。

### **口永良部島** [火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)]

火山性地震は少ない状態が続き、火山性微動は時々発生した。島内に設置した遠望カメラでは、噴気が時々観測され、高さは火口縁上20~200mで推移した。

GPSによる地殻変動観測では、2008年9月以降新岳火口浅部の膨張を示す変化が続いている。

口永良部島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があるため、火口から概ね2kmの範囲では大きな噴石<sup>1)</sup>に警戒が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石<sup>1)</sup>にも注意が必要である。

### **諏訪之瀬島** [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

御岳火口では、小規模な噴火が時々発生した。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、22日に火山灰を含む噴煙が火口縁上1,000mまで上がるのを確認した。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では、御岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石<sup>1)</sup>に警戒が必要である。

## 【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

### 阿蘇山<sup>あそまき</sup>[噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

中岳第一火口南側火口壁の噴気孔からの火炎現象<sup>5)</sup>は、火口カメラ<sup>6)</sup>で夜間に時々確認され、20日の夜間に行った現地調査でも観測された。また、同日の現地調査では、同噴気孔からごく少量の火山灰を含む噴気が観測された。

火山性地震は振幅の小さいものが一日あたり30回以下で前期間（一日あたり概ね50回）と比べ減少した。火山性微動の発生はなく、孤立型微動は少ない状態で経過し、その他の観測データにも特段の変化はなかった。

阿蘇山では、火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。ただし、火口内では噴気や火山ガスの噴出が見られることから、火口内等では火山灰噴出等に警戒が必要である。また、火口付近では火山ガスに対する注意が必要である。

5) 熱せられた噴出物が炎のように見える現象

6) 阿蘇火山博物館設置の火口カメラ

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はない。

### 【参考】 噴火警報及び噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル導入火山		噴火警戒レベル未導入火山	
噴火警戒レベル（キーワード）	警報・予報	警戒事項等（キーワード）	
レベル5（避難）	噴火警報	居住地域厳重警戒 または山麓厳重警戒	
レベル4（避難準備）	火口周辺警報	入山危険	
レベル3（入山規制）	噴火予報	火口周辺危険	
レベル2（火口周辺規制）		平常	
レベル1（平常）			

海底火山については、噴火警報（キーワード：周辺海域警戒）と噴火予報（キーワード：平常）で発表する。